

朝のゴミ捨てのあとにおしゃべりをするのが日課になったヤさんとトヨコさん。
ある日、大型台風が接近中とのニュースをみたトヨコさん。台風のことを心配したトヨコさんが、ヤさんに話しかけます。



トヨコさん

ヤさん！もうすぐ 大きい台風が 来るんやって！
朝のニュース、見た？

トヨコさん、おはようございます。
台風が 来ますか？ 知らなかったです。



ヤさん



1 ヤさん、知らなかったんかいな！最近では台風で大雨がふったら土砂災害
やら河川氾濫^{はんらん}やらエライ災害がぎょうさん起こるから、ニュース見とかなあかんで！！
去年の台風も雨がザーザー降って風もゴーゴー吹いて、ほんま、寿命縮むかと思たわ！
ヤさんもちゃんと備えとかんと！備えあれば憂いなし、って言うしな！

トヨコさん、災害はエライ、どういう意味ですか。
ソナエがあると うれしい？



あらら、トヨコさん。最初はやさしい日本語で話をはじめたけど、
気づいたらいつもの調子になってしまいましたね。



Step① ①の会話、やさしい日本語にするとしたら、どんな言い換えができそうですか？

Step② あなたがトヨコさんだったら、この他にどんなやさしさをプラスしますか？

Step③ やさしさを広げるために、ご近所や地域でどんなことができそうですか？



「土砂災害」や「避難指示」など、災害時にしか使われない言葉は外国人にとってなじみがなく、すぐに理解することは難しいです。また、「ザーザー」「ゴーゴー」といったオノマトペ（擬音語、擬態語）も、外国人にとっては難しい言葉の一つです。

それだけではありません。「ひなんじょ、って何ですか？どこにありますか？」「外国人も行っていいんですか？」「お金が必要ですか？」…これは防災訓練の際に、実際に外国人から出てきた質問です。災害に関する言葉は難しいだけでなく、地震がないなど出身国によって起こる災害が違うほか、避難訓練を受けた経験の有無などもあり、外国人の多くはわたしたちが“あたりまえ”と思っていることも、知らなかったり、わからなかったりすることがたくさんあります。

災害時特有の言葉をやさしい日本語にすることに加えて、どのような備えが必要か、避難所はどこにあるのか、どうやって多言語情報を得られるかなど、平時からさまざまな知識をつけておくこと、そして地域とのつながりを作っておくことが大切になります。